

くらし

夢再び

モンゴル恐竜調査隊

石垣 忍

「なぜ岡山で恐竜なんですか？」
もう何回訊かれたことだろう？ 二十
数年にわたって私はこの質問を受け続け
ている。

岡山からは恐竜化石が産出していな
い。恐竜時代の地層の分布も少ない。つ
ながった骨格が見つかる可能性も低い。
そんなところでなぜ恐竜の博物館作りな
のですか？ なぜ恐竜の研究なのですか
？ とたたくかけられる。

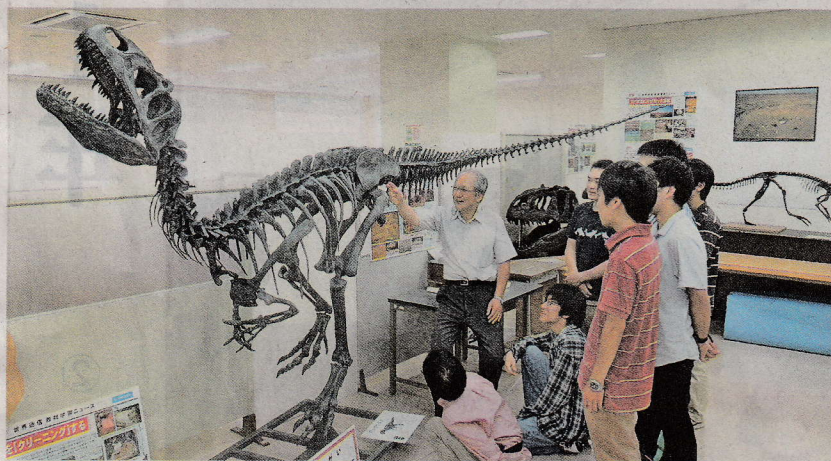
最初の頃、私は答えに困っていた。「発
案に対して、支援してくれる縁があった
のが岡山だった」ではだめなのか？ 東
京だったら「なぜ東京で恐竜なんですか」
と訊かれるだろう？ などと考えをめぐ
らせていた。

ところがある講演を聞いてから、いい
意味で開き直れるようになった。それ以
後、なぜ岡山で恐竜なんですかと訊かれ
たら、私はこう答えることにしている。

「倉敷と西洋美術みたいなものです」

こんなふうに答えるようになったきっ
かけは、1994年に当時大阪大の教授
だった山崎正和氏の講演会で、倉敷と大
原美術館の関係性の話を聞いてからであ
る。講演内容はもうはつきりとは覚えて
いない。不正確を顧みずに心に残った要
点を書くと、一かつては倉敷と西洋美術
は関係なかった。現在、大原美術館の存

⑮ なぜ岡山で恐竜なんですか？



関係性は作り出すもの

在によって西洋美術と倉敷は重要な関係
が出来上がっている。西洋美術を中心と
した日本有数の美術館である大原美術館
がない倉敷美観地区は考えられない。倉
敷と西洋美術の関係性は作られ、定着し
た。地方が東京を介さず直接に世界の普
遍的なものとながり、文化を創造でき
る」というような話だったと記憶してい
る。

我田引水的な解釈だったかもしれない
が、「なぜ岡山で恐竜？」攻撃で困って

いた私は、これで勇気が湧いた。最初の
段階では全く関係がなくても、関係性は
誠実かつ熱心に地元とつながりながら作
っていけばよいことを教えられたのであ
る。その後、直島などが現代美術の拠点
になっていくプロセスを見てさらに確信
を強めた。岡山と恐竜の関係は作り出し
ていくものなのだ。

さて、岡山と恐竜の関係は二十数年前
に始まった。岡山理科大学はその流れを継
承し、恐竜学の拠点作りを目指している。

幸いなことに、文部科学省の「私立大学
研究ブランディング事業」に「恐竜研究
の国際的な拠点形成」のテーマで応募し
ていた岡山理科大学は、採択の知らせを11
月末に受けた。これから大きな恐竜教育
研究プロジェクトが動き始め、学内に恐
竜学博物館もつくる。ゴビ砂漠での調査
は毎年実施することになる。

これから50年後、100年後。岡山と
恐竜の関係はどうなっているだろう。倉
敷と西洋美術のような関係になれるだろ
うか？ その力ギは、かわる人々がど
う活動していくにかかっている。夢再
び。モンゴルと、そして岡山の皆さんと
協力しながら大きくて楽しい夢に挑戦し
ていきたい。(岡山理科大学教授)

おわり

学内の恐竜展示を使った講義を受ける学生たち。
恐竜の研究過程が分かる「恐竜学博物館」は研究
現場を持つ岡山理科大学の強みを生かす場になる